

## 「忘れないことが支援に」

### 高山日赤で防災啓発

○…高山市天満町の高山赤十字病院では、棚橋忍院長（六〇）ら幹部五人が救護服を着て、来院者に防災・減災をアピールした。写真。非常時の持ち出し品リストなどが書かれたチラシやクリアファイル二百枚を配り、「東日本大震災から五年。いざというときの準備を」などと呼び掛けた。棚橋院長は「震災を忘れないことが支援になる。いつ起こるか分からない災害を想定し、病院としても備えを万



全にしたい」と話した。

この日は市民講演会もあり、内科医師の浮田雅人さんや日赤県支部職員らが、被災地での救護活動や震災時の対応などを紹介。地震の発生時刻には職員や来院者が黙とうした。